



捨てるかすれば何かと聞かれ、孔子は「兵」と答えました。さらに残った2つのうち、どちらを捨てるかと問われ、「食」と答えました。最後に残ったのは「信」。つまり、国民からの信頼なくして政治はできないということ。「信なくば立たず」の由来です。

7月末で、私が国会議員になって丸2年。残念ながら、私の目の前で起る、民意と乖離した、信頼を失う政府の言動は、枚挙に暇がありません。まだまだ実力も勉強も足りない私ですが、遠くを見据えながらも、引き続き、現場や国民、県民の皆さんがいま身近に困っている問題の解決に、一つひ

は、私が3月初旬に政府に提出した「質問主意書」がきっかけです。質問主意書？ 初めて耳にする方も多いと思います。国会議員は通常は議会や委員会、直接口頭で、政府や大臣に対して質問するのが一般的です。それを補完する制度が質問主意書です。簡単に言うと、紙ベースでのやり取りです。質問に対する回答は、菅内閣全体の意思決定（閣議決定と言います）をもとになされ、非常に重要な文書となります。

本件を通じて、再認識したことが2つあります。

1つ目は、私のような無所属、新人議員であっても、質問主意書

のように政府をチェックできる制度が、歴史ある国会にはちゃんと存在するという事です。その答弁作成に伴う官僚の負担はとても大きいので、むやみやたらに提出することは控えるべきです。しかし、ここぞという時は、自身の仮説や問題意識をもったうえで、国民、県民の皆さんの暮らしや社会を良くするため、存分に使いこなしていきたいと思っています。

2つ目は、SNSの影響力で、ひと昔前は、政治の話題や情報といえば、新聞やテレビを介して流れる、大物議員や政党幹部の言動が中心でした。いまは違います。SNSを活用すれば、新人、無名でも情報発信ができます。共感を得られれば、一気に拡散され、メディアも取り上げてくれます。今回、私が提出した質問主意書は、まさにそのような結果になりました。たった一人の市民のSNS投稿が発端となり政府が動く話は、以前の会報でも触れた通りです。

世の中どうしても、組織にどっぷり浸かると、やりにくい、言いにくいこともあるでしょう。いまは無所属の立場を最大限に生かす。付与された制度、時代のツ



きよし

ルだつてある。私がやるべきは、国民や県民の皆さんの方をちゃんと向いて、地に足の着いた仕事をコツコツ重ねていく。おかしいものは、おかしいと言う。現場や地方を大事にする。その基本はまったく変わりませんが、それをより具現化する3年目にしたいと思います。

最後に、私がこうやってのびのびと仕事ができるのも、地元の大分県の皆さんが、いつも温かくご支援、叱咤激励してくださるおかげです。皆さんの想いを、頭のド真ん中に置いて、引き続き頑張ります。

おかげさまでの3年目です。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。